

■2010年活動報告■

募金贈呈

12月27日(月) 事務所

◆日本語学校弘堂国際学園(鳥栖市)の留学生6人の皆さんは、弘堂祭バザーの売上と、地域の皆さんとの交流会で得られた謝金を合わせて計33,064円をユニセフ募金としてお持ちくださいました。

◆留学生の皆さんがユニセフへの寄付を考えられたのは「基礎教育が国の発展のために非常に大切であると考えている。ユニセフはそのための仕事をしているから。」とお話でした。



募金贈呈式

12月24日(金) 柳川市立豊原小学校



◆豊原小学校児童会では年間計画の中に「ユニセフ募金活動」を入れています。代表委員の皆さんは、北風の吹き込む児童昇降口で登校する皆さんに協力を呼びかけました。子どもたちの中には朝早くからお金をにぎりしめ、係の6年生が来るのを待っていてくれた人もいたそうです。

◆2学期終業式の後でユニセフ募金の贈呈がありました。代表の方から10,816円のずっしりと重たい募金箱を手渡されました。豊原小学校は文科省の学校安全教育優良学校優秀賞を受賞し子どもたちは学校でも“いのちを守る方法”を学んでいます。世界には、安全な水を手に入れられない子どもたちや予防接種を受けることができない等々“いのちを守る方法”に生まれてから一度も出会ったことのない子どもたちがたくさんいることをお話ししました。

第32回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金

テーマ 『届けたい。すべての子どもたちに“いのちを守る方法”を』

12月12日(日)	佐賀市	ゆめタウン佐賀 イオスーパーセンター佐賀店
	小城市	バニーズ三日月店
12月18日(土)	鹿島市	ピオ ララベル
	佐賀市	富士町ぬくもりの会会場
12月19日(日)	佐賀市	佐賀玉屋前 ジャスコ佐賀大和店 ベスト電器佐賀大和店 ホームワイド佐賀大和店
	上峰町	上峰サティ

- ◆3日間ともハンド日和の良いお天気に恵まれ、園児から小・中学生、引率の皆様、高校生、大学生、ボーイスカウト、カブスカウト、地域のボランティア団体の皆様、高齢者団体の皆様方等々、総勢253人にものぼるボランティアの皆様が参加してくださいました。
- ◆ボランティアの皆様は、「ユニセフ募金にご協力をお願いしま〜す！」「15円でポリオワクチン一回分をおくることができま〜す！」「80円あれば下痢による脱水症から子どものいのちをまもる経口補水塩を10袋おくることができま〜す！」「ありがとうございます！」と大きな声で協力を呼びかけました。ボランティアの皆様の熱い思いは、暮れのお買い物をされるお客様の心に届きたくさんのご協力をいただきました。
- ◆ご多用のなか駆けつけてくださったボランティアの皆様、募金箱に温かいお気持ちをお寄せいただいた多くの皆様、快く会場をご提供くださった企業の皆様、本当にありがとうございました。
- ◆12月12日・18日・19日と3日間にわたって行われました街頭募金活動には総勢253人の方がボランティアとして参加していただき、多くの皆様方から温かいご支援をいただきました。
- ◆たくさんの皆様のご支援ご協力まことにありがとうございました。心よりお礼申し上げます。
- ◆11月と12月の2ヶ月間にわたって行いました『第32回ユニセフ・ハンド・イン・ハンド募金』での募金総額は、2,424,242円となりました。ご報告申し上げます。ありがとうございました。

イオンスーパーセンター佐賀店

柳川市から子どもたち・引率の先生・保護者の皆様など多くのボランティアさんが参加くださいました。お客様のなかには、たくさんのお金を貯めた箱を抱えて来てボランティアの子どもたち全員の募金箱に入れてくださった方がいらっやって、子どもたちははじめ、ボランティア全員、大変感動しました。



ゆめタウン佐賀



バニーズ三日月店

三日月中学校生徒会のみなさんを中心に総勢19名が募金を呼びかけました。一人のお客様が近づいてこられて「さっきは細かいのがなかったから買い物してきたおつりです」と持ってきてくださって感動しました。



鹿島会場

ボーイ、ガール、カブスカウトの皆さんを中心に18名が参加し、ピオ会場とララベル会場で募金活動をしました。この日はとても気温が低く寒かったのですが、みんな元気な声で募金を呼びかけていました。わざわざ自宅に帰りお金を持ってきてくださる方もおられました。



富士町ぬくもりの会



佐賀玉屋前



上峰サティー



ユニセフグッズの頒布

12月17日(金) Begin日野原重明先生講演会(佐賀市文化会館)

- ◆佐賀新聞社のメンバーズクラブ「Begin」の講座で(財)日本ユニセフ協会大使の日野原重明先生の講演会があり、1500人の会員さんは和やかな雰囲気の中で「いのち」や「生き方」についてのお話に耳を傾けられました。
- ◆ホワイエでユニセフグッズの頒布をし、多くの方からご協力をいただきました。ありがとうございます



ユニセフ出前授業

12月1日(水) 大川市立木室小学校1年～6年
「名前があるということ 誕生日があるということ」



- ◆木室小学校では人権・同和集会で、日頃の生活のなかで感じたことを作文にして発表したりポスターの発表をしたり、「世界の子どもたちの今」を知り「いのちの尊さ」について考えたりしました。
 - ◆世界には出生登録をされないで「存在しない子どもたち」として、様々な不利益な状況下におかれている子どもたちがたくさんいることをお話ししました。
- 出生届(出生登録)をして名前や誕生日が戸籍に載ることは子どもが基本的に持つ権利であり、それによって健康に育ったり多くの社会的サービスを受けたりすることができることなどについてお話しをしました。また、名前はその人そのものであって、自分の名前と同じように他人の名前も大切にすることについても考えてもらいました。

学習を終えて(感想文より)

○本当はちゃんというのに、出生登録をしていないのでこの世に存在しないことになっている子どもたちが世界にはたくさんいるということに驚きました。名前や誕生日をちゃんと証明できるものがあるのはとても大切なことだと初めて知りました。そんなに大切な名前だから、私は時々友だちをあだ名で呼んでしまうから気をつけなきゃいけないと思いました。これからもっと友だちを大切に話しかけたいです。(6年)

○私は出生届をして自分の名前や誕生日をちゃんと登録してくれた家族に一番に感謝したいです。また、私を支えてくれている人にも感謝したいです。名前は他の人にとっても大切なものだと思うので、呼び捨てにしたりあだ名で言ったりしないようにしていきたいです。(6年)

○世界には出生登録をされていない子どもたちがたくさんいて、私たちが勉強している間にも働かされたり売られたり兵士にされたりして、とてもつらい思いをしているんだと思いました。12歳になってやっと出生登録をされた女の子が上の学校に行けると、とても喜んでいたのでよかったなあと思いました。(6年)

ユニセフすごろく&ユニセフグッズの頒布

11月23日(火) 「出会う・つながる」子育て支援 ばぶばぶフェスタどん3
(佐賀市どんどんの森・アバンセ)



かっこいいイクメンジャーによるダンス

- ◆子育て支援イベント「ばぶばぶフェスタどん3」(佐賀県・佐賀新聞社主催)は好天に恵まれ会場は13,000人の親子連れで終日賑わいました。家族でいろいろな催しを通して学びながら楽しく過ごしました。
- ◆「にこにこゾーン(交流・体験)」のユニセフのブースでは、子どもが生まれてから小学校を卒業するまでを、名前の登録⇒予防接種⇒水汲み⇒井戸ができる⇒教科書をもらう⇒…等々を、すごろくを通してたどっていきました。小さな子どもたちも大きなサイコロを転がして楽しく参加していました。

ユニセフすごろくコーナー



パネル展・ユニセフグッズの頒布

11月20日(土)～21日(日) 第62回全国人権・同和教育研究大会佐賀大会 佐賀市会場



- ◆第62回全国人権・同和教育研究大会佐賀大会が20日・21日の二日間にわたって佐賀県内3会場(佐賀市・武雄市・唐津市)において開催され、全国各地から1万人を超える参加者がありました。
- ◆佐賀会場の佐賀市文化会館イベントホールでの特別部会「展示と交流」には15の団体が参加しました。佐賀県支部はパネル展「子どもの権利条約を読んでみよう」と、ユニセフグッズの頒布、ビデオ上映をしました。
県外から参加された方から、支部の活動内容や、自分の県に日本ユニセフ協会の支部はあるのか、子どもの権利条約とユニセフの関係は、グッズの頒布目的は、等々のお尋ねがあり、有意義な交流の場となりました。

ユニセフ出前授業

11月17日(水) 柳川市立矢ヶ部小学校1年～6年
「水とトイレと子どものいのち」



- ◆柳川市立矢ヶ部小学校では毎年ユニセフ授業を教育課程の中に位置づけて、ユニセフの活動からみえる世界の子どもたちをとりまく様々なことを学習しています。
- ◆「水とトイレと子どものいのち」というテーマで、低学年の部・高学年の部の2部に分けて学習をしました。最も身近な「トイレ」の話を切り口にして、ユニセフの活動「水と衛生」の学習に子どもたちは生き生きと取り組みました。

【学習を振り返って】

- ◆マリの人たちが、井戸ができたときに涙を流して喜んで「夢みたいだ。」と言っていた。きれいな水が使えるということとはそんなにもうれしいものかと初めて知った。だからぼくもそんなに大切な水だからこれからは水を大切に使おうと思います。
- ◆いつも何も考えないでトイレを使っているの、家や学校にトイレがないところがあるなんて思ったこともなかった。トイレに行って水が使えるのは当たり前だと思っていた。でも、世界にはちゃんとしたトイレを使えない人が26億人もいるなんてびっくりしました。
- ◆マリでは5歳の誕生日を迎えられなくて亡くなる子どもが5人に1人の割合だと聞いて驚きました。かわいそうだなあと思います。きれいな水やトイレがあれば死ななくてよかったと思います。
- ◆トイレと水と子どものいのちが、つながっているということがよく分かりました。



イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン

11月11日(水) ジャスコ佐賀大和店

- ◆毎月11日に行われている「幸せの黄色いレシートキャンペーン」活動に参加しました。
- ◆店内にはキャンペーンの旗がレジ毎に立ててあり、放送も何度もしていただきました。キャンペーンの趣旨がお客様に浸透されているようで、大勢の方が進んでレシートを提供してくださいました。また「お買い上げの1パーセントが、世界の子供たちの募金になります。」と説明させていただくと、快く提供してくださいました。



ユニセフグッズの頒布

11月7日(日) 日本バプテスト連盟佐賀キリスト協会(佐賀市)

- ◆佐賀キリスト教会では1993年の佐賀友の会(佐賀県支部の前身)設立準備年以来毎年ユニセフカード・グッズの頒布にご協をいただいています。
「幼児祝福式」のあと、ユニセフのグッズをご紹介しました。礼拝に来ていたかわいい子どもたちもユニセフのクリスマスカードやプロダクツを手にとって見て、お母さんに買ってもらっていました。
- ◆スタッフは「今日祝福された子どもたちのように、今生まれた子どもたち、今日を生きている世界の子どもたちにもこのような幸せがありますように。」との思いで、頒布のお手伝いをさせていただきました。



ユニセフパネル展&グッズの頒布

11月7日(土) 本庄まつり かたりべの里会場にて(本庄小学校)

- ◆好天に恵まれ、沢山の参加者があり、賑わいました。
- ◆ユニセフブースでは、パネル展示、バザー、グッズ頒布をしました。
バザーコーナーでは、お小遣いでぬいぐるみやマグカップを買ったり、おじいちゃんにと焼酎のカップセットを買って下げて行く男の子 なんと微笑ましい光景でした。カードコーナーでは「毎年買いにきているよ。」という子どもさんや「ニューヨークの国連本部に行った時ユニセフグッズを買ったので、本庄小でもお母さんに買っていきます」と言ってお母さんを買ってくれた子どもさん。またビタミンAやプランピーナッツ、ORSの説明をすると、募金に協力してくれる子ども達もいました。

ユニセフグッズの頒布

10月31日~11月3日

「緑のテラス・清水」にて (上有田うーたん通り 秋の窯まつり会場)

- ◆今年も上有田うーたん通り、秋の窯まつりが10/31(日)から11/3(水)の4日間、開催されました。
それぞれの店が趣向を凝らしたおもてなし、イベントでお客様をお迎えするこの窯まつり、春の陶器市とはまた一味ちがった味わいがあります。
今年もその中の緑のテラス、清水さんのお宅ではお住まいを開放、手作りの温もり溢れるおもてなしのその一角でユニセフグッズの紹介、頒布を行っていただきました。



ユニセフグッズの頒布＆募金活動

10月31日(日)

第35回日本ハンドボールリーグ佐賀大会にて
(神崎中央公園体育館)



◆第35回日本ハンドボールリーグ佐賀大会会場においてユニセフグッズ頒布、募金活動をしました。佐賀大会2回目の本日は、「神崎市民応援DAY」として位置づけられ、多くの市民の方々が地元トヨタ紡織九州のレッドトルネードチームの応援に駆け付けられました。



◆試合後にレッドトルネードの選手の皆さんが募金箱を持ってユニセフ募金への協力を呼び掛けられました。応援DAYに来られた皆さま、会場に出店されていた企業の皆さま方のご協力で、29,394円の募金をいただきました。ありがとうございました。

ユニセフ出前授業＆募金贈呈式

10月23日(土)柳川市立大和公民館

- ◆柳川市立大和公民館青少年ボランティア「なんでもお助け隊」(小学4年生～高校1年生26人)の皆さんは、9月20日柳川市民体育館で開催された「柳川市リサイクルマーケット」に出店しました。夏休みに、家庭から持ち寄った材料でマスコットやコースター、かわいらしい髪留め、ミサンガ、マフラー等を作り、更にバッグやタオル、食器などの日用品を販売しました。リサイクルマーケットの収益金18,920円を「世界の子どもたちのために役立ててください。」と託されました。
- ◆その後、DVD「いのちの水～西アフリカ・マリからの報告～」を視聴し、村に井戸ができたことによって、村の人々の暮らしが色々な面で改善されている様子を知りました。さらに、「スペシャルドリンク」作りをし、脱水症から命を守るORS(経口補水塩)についてお話をしました。



【学習を終えて】

- ◆井戸がとても大切なものということが分かった。アフリカの人々は水を大切にしているの、私も水を大切にしようと思った。
- ◆お風呂やトイレ、部活など、日常生活の中でたくさんの水を使っているけど、そのうえにさらに目に見えないバーチャルウォーターなどたくさんの水を私たちは使っている。日本は水をふんだんに使える裕福な国だと思った。一方で、世界にはきれいな水に恵まれない多くの人々がいるので、私たちは水を大切にしなければならぬと改めて思った。
- ◆将来、ユニセフで働きたいと思った。頑張ろう！と思う。

ユニセフ写真展「立ち上がる女性たち」

～アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使が見た“忘れられた国”ソマリア～

期日：10月14日（木）～21日（木）

会場：佐賀市立図書館2Fロビーギャラリー（佐賀市天神どんどんの森）

後援：JICA九州 佐賀県国際交流協会 佐賀市国際交流協会 佐賀新聞社



◆「“世界から忘れられた緊急事態”を日本に、そして世界に伝えて欲しい。」昨年秋ユニセフ・ソマリア事務所から寄せられた要請に応え、2010年2月17日から22日までの6日間、アグネス大使はソマリア北東部のハルゲイサを訪問しました。20年以上続く紛争や干ばつ、無政府状態…。150万人以上の国内避難民を抱え360万人以上が人道的な緊急事態の中にいるとされながらも、国際社会から“忘れられた国”ソマリア。

長い間の無政府状態によって、当然あるべき社会サービスが崩壊し、子どもの5人に1人は5歳まで生きることができません。

女性や子どもたちは常に暴力や搾取の危機に晒されています。しかし一方で、この国の将来を担う子どもたちのために、自らの手でより良い社会を築こうと奔走している女性たちがいます。

フォト・ジャーナリスト新藤健一氏が撮影した写真を通じて、ソマリアの現状と、その再起に向けて立ち上がった女性たち、そして、そこに生きる子どもたちの姿をお伝えしました。



【アンケートより】

- ◆ハルゲイサという場所を聞いたことがなかったのですが、これを機会に知ることができました。今、この時も懸命に生きている人がいることを改めて知ることができ、私もがんばろうと思いました。
- ◆中学生の時ユニセフについて調べ学習していたが、それから何年か経ち、恵まれた日本にいます、ソマリアのような国があるということを忘れてしまっていたが、今回の写真展を見て日本の日常の暮らしが当たり前ではないということを改めて感じた。
- ◆無政府状態で女性や子どもたちは常に暴力や搾取の危機にさらされているということで

ですが、女の子の力強い目の輝きにソマリアの希望を感じました。ユニセフはずっと支援をしていると思いますが、なかなか改善しない社会状況でもユニセフの仕事が徒労に終わらないようにと願いたいと思います。

第7回 ユニセフのつどい

10月17日(日) 佐賀市立図書館 イベントホール

後援: JICA九州 佐賀県国際交流協会 佐賀市国際交流協会 佐賀新聞社

講師: 菊川 穰氏 (財)日本ユニセフ協会団体・組織事業部

演題: 「ユニセフの現場から ～レソト、エリトリア、そしてソマリア～」

レソト、エリトリアでのユニセフ現地事務所で青少年育成、子どもの保護、及びHIV／エイズ分野を中心とした調整・管理業務に携わられた6年半の経験をもとに話してくださいました。



アンケートより

- ◆初めてアフリカの国の名前を知ることができて知識が増えた。
- ◆先進国による支援の必要性が実感できたが、同時に自助努力を促進する精神的な教育支援の手法を学ぶことができた。
- ◆施設等を提供するだけでなく、その後の管理やアフターフォローの必要性が分かった。
- ◆現地で仕事をされた方の生の話を聞くことができて勉強になった。
- ◆普通、学校に行けないのは女の子が多いのにレソトでは男の子が学校に行けないと知って文化の違いを感じました。牧畜にも文字を読んだり計算が出来たりした方が、仕事の上で損をしないと思う。文字の読み書きや計算ができないと悪い人にだまされるかもしれないと思う。
- ◆学校に行けない男の子のためにユニセフが夜間に識字教室を開いているということも知ることができた。

世界手洗いの日

◆世界で5歳の誕生日を迎えずに命を終える子どもたちは年間880万人。その原因の多くは予防可能な病気です。自分の体を病気から守る、最もシンプルな方法のひとつが、せっけんを使った手洗いです。正しい手洗いを広めるために国際衛生年であった2008年から、毎10月15日が「世界手洗いの日」(Global Hand washing Day)と定められました。

◆本年も佐賀県にご協賛いただき、多くの子どもたちが参加して正しい手洗いの方法を楽しく学びました。

◎幼稚園・保育所・小学校での取り組み
平成22年10月15日(金曜日)を中心に。

実施施設

県内8市町(佐賀市、唐津市、多久市、
鹿島市、みやき町、玄海町、大町町、太良町)
の25施設(幼稚園7、保育所14、小学4)



◎保健福祉事務所によるイベント等での啓発活動

杵藤保健福祉事務所

「インフルエンザ研修会」での啓発(10月15日 武雄市文化会館)

鳥栖保健福祉事務所

「防災フェスタ2010」での啓発(10月17日 サンメッセ鳥栖)

10月3日(日)

平成22年度「薬と健康の週間」

“くすりのふるさと佐賀”会場(佐賀市 徐福長寿館)



◆「世界手洗いの日」関連コーナーを設置しました。

ユニセフのサポーターTシャツを着た佐賀県健康増進課職員さんと一緒に「手洗いの歌(DVD)」の映像、歌がエンズで流れる中、およそ180人が手洗いチェックにチャレンジし、来館者に大好評でした。

* 手洗いチェックとは: 手全体に蛍光塗料の入ったローションを「擬似汚れ」として塗り、手を洗い、「擬似汚れ」の残り具合を蛍光ランプで見ることで、汚れがきれいに落ちているかどうかをチェックするものです。(汚れ落ちが悪い=手洗いが悪い ⇒ 手に残った蛍光塗料が光る)(資料提供: 佐賀県)



10月15日(金)
愛の泉幼稚園(佐賀市)

- ◆ 園児のお母様方5名による「世界手洗いの日」プロジェクトチームが結成されました。子どもたちは、変身キットの紙芝居「どのように、手をあらっているのかな」や、紙芝居「ありがとうセッケンマン」で、手洗いの大切さを学びました。さらに、お母様方の手洗いチームは、よく洗った手・ちょっとだけ洗った手・洗わなかった手にそれぞれ「魔法の液」をスプレーして、よく洗った手はきれいだが、あとの手は真っ黒に汚れがついているというのを実験され、子どもたちは大変驚いていました。



- ◆ そのあと、「あわあわ手あらいのうた」の、♪お願い、カメさん、お山、おおかみ、バイク、つかまえた、♪など、6つのポーズを作りながら丁寧に手を洗いました。
- ◆ 現役の看護師さんや看護師経験の保護者5名に協力していただきました。「ユニセフの働き」や「世界で病気に苦しんでいる子どもがいること」「手洗いの大切さ」を紙芝居や歌を使って分かりやすくし指導していただき、子どもたちは真剣に聞いていました。愛の泉の子どもたちは手洗いがとても上手になり、歌を口ずさみながら楽しんで手洗いをしています。参加してとてもよかったと思っています。ありがとうございました。(馬場園長先生)



10月15日(金)
おひさま保育園

- ◆ 10月15日(金)午前と午後の2回“GLOBAL HANDWASHING DANCE”をみんなで楽しく踊りました。もう1回1もう1回！と何度もかわいいアンコールの声が聞こえていました。
- ◆ 0歳児から3歳児までの園で幼い子どもたちですが、手洗いに興味を持つよいきっかけだと感じています。また、世界の子ども達に対して、まず“知る”という事から始まり、それが第一歩であると感じました。(竹内園長先生)

10月15日(金)
あおぞら保育園(佐賀市)

- ◆ 年長組の子どもたちを対象に、まず、先生方が作られた図や、手洗いの歌を使って正しい手洗いの方法を再確認しました。その後、佐賀県のキャラクター、たべんば君が登場し、子どもたちが順番に手を洗うのを、身振り手振りを交えて応援しました。子どもたちは喜んで正しい手洗いを学びました。先生方が単に手洗いの大切さだけではなく、世界中の子どもたちが置かれている衛生状況についても、一生懸命に説明されていたのが印象的でした。(資料提供:佐賀県)



ユニセフ出前授業

9月30日(木) 吉野ヶ里町立三田川小学校5年

総合的学習の時間「世界の子どもたちのために…自分ができること」

「ごちそうさまの向こう側」～ユニセフってなあに?～



- ◆ 三田川小学校5年の皆さんは総合的学習の時間に「世界の子どもたちのために…自分ができると…」というテーマで学習をしています。本日は、最も身近な「食」から自分の暮らしを見つめ、また、一方では食糧不足で必要な栄養がとれない子どもたちがたくさんいること、そして、それを改善するために働いているユニセフについて学習しました。

【学習を終えて】

- ◆ 食べ物を分けるゲームをして、ぼくはとてもぜいたくをしているのだなあと思いました。
- ◆ 給食を残さないようにしようと思います。
- ◆ 食べ残したものをよく捨てているので必要な量だけ買って、いらないものを買わないようにしようと思いました。
- ◆ 世界には食べ物がなくて困っている人々がたくさんいるので、自分のものを分けてあげられたらいいと思いました。
- ◆ ぼくたちが食べ物を捨てるということは、世界の人々の食べ物をぼくたちが捨てているということだと思いました。
- ◆ ユニセフは子どもたちのために仕事をしているので、募金についてももっと知りたいと思います。



募金贈呈式

9月29日(水) 事務所にて



- ◆ 佐賀清和中学校では9月8日～9月10日に清和祭が行われ、ユニセフ実行委員会の皆様が中心となってユニセフチャリティーバザーと募金活動をしました。
- ◆ 本日はユニセフ実行委員会の松尾さんと稲股さんが担当の西田先生と一緒に、保護者の皆様や生徒の皆様からご協力いただいたユニセフ募金39,919円を届けてくださいました。また、「なくそう 子どもポルノ…『児童買春・児童ポルノ禁止法』の早期改正を求める要望書」の署名活動にも取り組み、161筆の署名ご協力をいただきました。

【活動を終えて】

- ◆ 今回の活動を通して思ったことは、最初はみんなこの活動に対する意識が低くて募金などはあまり集らなかったけど、強制的に働かされる子どもたちの姿をビデオで見たり説明をしたりしていくうちに、みんなも意識を持ち始めてくれるようになったのが嬉しかったです。そして募金などが徐々に集まっていったことが一番のやりがいとなりました。
- ◆ 中学1年生のときから3年間ユニセフ実行委員としてやってきました。色々大変なこともありましたが、世界の貧しい子どもたちのことを思って必死で頑張りました。僕たちのやってきたことで、たくさんの子どもの命が救えたと誇りに思っています。これからもユニセフ募金など様々な活動に積極的に参加したいです。

ユニセフパネル展 & グッズの頒布

さが国際ふれあいフェスタ '10 ～手をつなごう！世界と佐賀と～

9月19日(日) さが国際ふれあいフェスタ2010の会場にて(佐賀市アバンセ)

- ◆「さが国際ふれあいフェスタ2010」が19日、佐賀市天神のアバンセで開かれ、ユニセフパネル展「ユニセフの願い」、グッズ頒布を行いました。
- ◆来場者に「児童買春・児童ポルノ禁止法」の署名を呼びかけ311筆の署名をいただきました。
- ◆また、世界の貧困と飢餓を無くすための「立ち上がれ一歩！」のイベントに参加し、他団体との交流を深めました。



ユニセフグッズの頒布

9月18日(土)第35回日本ハンドボールリーグ佐賀大会にて (トヨタ紡織九州クレインアリーナ)

- ◆第35回日本ハンドボールリーグ佐賀大会会場においてユニセフパネル展、グッズ頒布、募金活動をしました。
- ◆試合後にトヨタ紡織九州株式会社ハンドボールチーム「レッドトルネード」の監督さん選手の皆さんが募金箱を持って募金活動にご協力くださいました。6,430円のグッズご協力、5,416円の募金協力をいただきました。皆さまありがとうございました。



ユニセフパネル&地雷展「紛争下の子どもの人権」

佐賀市平和展 ～語り継ごう、平和の尊さ～

8月5日(木)～8月8日(日) 佐賀市立図書館

- ◆佐賀市では平成4年度から毎年「佐賀市平和展」を開催し、今年で19回目を迎えます。
今回の平和展は、「戦争の悲惨さを後世の人々に伝えていくこと」と「核兵器廃絶の願い」をテーマとして開催されました。
- ◆漫画“はだしのゲン”原画展、佐賀新聞に見る戦争の世相展、ヒロシマ・ナガサキ原爆の傷跡パネル展、いのちのまつり読み語りコンサート、映画「ヒロシマ・ナガサキ」「はだしのゲン」上映、谷口稜嘩さんによる被爆体験講話、日本ユニセフ協会佐賀県支部によるユニセフパネル&地雷展「紛争下の子どもの人権」などの催しに2800人の市民の皆様のご来場がありました。



参加者の声(アンケートより)

- ◆地雷はふんで爆発する地雷だけとか思っていたけどいろいろな地雷があって、なんでこんなものを作ったんだろう、作った人はよくないと思った。(小学生)
- ◆子どもを兵士として使うなど、戦争には子どもを使ってはいけないと思いました。(中学生)
- ◆いろいろな種類の地雷があり、草むらの中でひそかに人を傷つけるのを待っているということが分かりました。ユニセフが「地雷から自分を守る方法」を子どもたちに教えているなんて知りませんでした。とても大事なことだと思いました。(高校生)
- ◆僕たちと同じような年齢の子どもが銃を持たされて兵士として使われていることに驚きと怒りを感じました。大人はどうしてこのようなことをさせるのだろう。兵士として使われた子どもたちは生き残っていても、体だけではなく心にも深い傷をおっていると思うので一生苦しむと思う。子どもを兵士として使うのは止めてほしい。(高校生)



ユニセフ出前授業

神崎市放課後子ども教室ドリームパーク

8月4日(水) 神崎市立西郷小学校にて

テーマ：水から世界を考えよう

◆神崎市子どもの居場所づくり実行委員会では、国の委託を受けて神崎市内の7小学校や公民館で、放課後や週末にいろいろな体験活動・世代間交流ができる居場所づくりを進め、心豊かでたくましい子どもを育むことを目的としてドリームパーク事業を運営されています。

【子どもの発言より】

- ◆村に井戸ができたなら人が増えて畑もできてみんなの顔が笑顔になってよかった。
- ◆水は軽いと思っていたけど水運びをして重いということが分かった。手が切れそうなくらい重かった。
- ◆水を大切にしようと思った。手を洗うときに出しっぱなしにしないようにする。
- ◆何時間も水を運ぶのは大変なことだと思った。
- ◆水の話をしていろいろして、水を大事に使うということを教えてくれてありがとうございました。



水運びをしてみよう



「いのちを守る水」すごろく

ユニセフパネル展&ユニセフグッズ頒布

7月28日(水) アバンセ(佐賀市)

- ◆佐賀県生活協同組合連合会主催の『ピースアクション2010 ～子どもたちに、核兵器と戦争のない世界を願って～』が、190人の参加者のもとに開催されました。
午前中は、どんどんどんの森ふれあい広場から平和行進がスタートしました。午後はアバンセホールで「平和のつどい2010」が開かれ、講演会と平和コンサートがありました。
- ◆ホールホワイエで、ユニセフのパネル展・ユニセフグッズの頒布をしました。皆さまからのグッズ頒布ご協力は11,850円、ユニセフ募金は11,282円でした。ありがとうございました。



←
グッズ頒布コーナー

→
パネル・地雷レプリカコーナー



募金贈呈式

7月13日(火) 小城市立三日月小学校



- ◆三日月小学校では、毎年ユニセフ募金にご協力いただいています。募金活動に取り組んだボランティア委員会のみなさんより、10,000円の募金の贈呈が行われました。
- ◆募金贈呈の後、「ユニセフとユニセフの仕事」についての説明をして、児童のみなさんのご協力がどのようにいかされるかを、「マラリア予防用の蚊帳」を例にあげてお話しました。三日月小学校のみなさん、ありがとうございました。



【募金贈呈にあたって:ボランティア委員会代表】

- ◆このお金は、5月に全校児童の協力により集まったものです。ユニセフ募金と白い羽募金の二つの目的で集めたもので、その半分をここに用意しました。貧しい人たちを助けるために、この募金を必要としている人たちに少しでも役に立つことができたと思います。どうぞ、お納めください。これを機会にもっと世界のことを知り、困っている人たちのために、遠くはなれた私たちでも、何かできることはないかと考えていきます。

イオン・幸せの黄色いレシートキャンペーン

7月11日 ジャスコ佐賀大和店(佐賀市大和町)

- ◆毎月11日の「イオン・デー」には「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」が実施されます。お客さまがレジ精算時に受け取った黄色いレシートを、地域のボランティア団体名が書かれた店内備え付けのBOXへ投函していただくと、レシートのお買い上げ金額合計の1%がそれぞれの団体に寄付されるというシステムです。
- ◆佐賀県支部も投函BOXを用意していただいています。ユニセフへのご協力を呼びかけますと多くのお客様がレシートを入れてくださり、投函BOXは「幸せの黄色いレシート」でいっぱいになりました。ご協力ありがとうございました。



ユニセフ出前授業

7月8日(木) 佐賀県立ろう学校中学部にて

テーマ：平和について考えよう

- ◆佐賀県立ろう学校中学部のみなさんは、ユニセフの資料を使って世界の様々な困難な状況下にある子どもたちのことを調べました。そのなかで、自分たちと同じぐらいの子どもたちが兵士になっていることを知り、平和について考えることにしました。



【学習を終えて】

- ◆ぼくは毎日おなかいっぱいご飯を食べて、学校で勉強したり部活動をしたりしています。病気になったら薬を飲んだり、病院に行ったりしてまた元気になって生活をしています。このことについて今まであまり考えたりすることはありませんでした。でも、今日の話を聞いてふつうのことが当たり前には平和だからだということを知ることができました。世界では今も戦争があつていてぼくたちと同じような子どもたちが早く死んだり病気になったりしていることを知りました。ぼくは世界が絶対に平和であつて欲しいと思います。これから、ぼくにできることを考えてやっていきたいと思います。

神崎市放課後子ども教室ドリームパーク

ユニセフ出前授業

7月7日(水) 神崎市立西郷小学校にて

テーマ：水から世界を考えよう



- ◆神崎市子どもの居場所づくり実行委員会では、国の委託を受けて神崎市内の7小学校や公民館で、放課後や週末にいろいろな体験活動・世代間交流ができる居場所づくりを進め、心豊かでたくましい子どもを育むことを目的としてドリームパーク事業を運営されています。
- ◆西郷小学校ドリームパーク「ほしグループ」の子どもたち42人(1年～5年)は、「水から世界を考えよう」というテーマで学習しました。クイズで衣・食・住、全てのものに水が関連していることに気付いたり、すごろくゲーム「いのちを守る水」で井戸が出来るまでのいろいろなことを知ったりしました。また、村に「井戸ができる前」と「井戸ができた後」の2枚の絵を見比べて、井戸ができたことによって村の生活がどのように変わったかを話し合いました。水運び体験では水の重さに驚く子どもたちもいました。

【子どもの発言より】

- ◆井戸ができたので、畑で野菜が育ったり木が育ったりしているのでよかった。
- ◆学校のまわりに子どもたちが増えた。子どもたちが学校に行けるようになった。
- ◆レンガの家ができた。ニワトリや馬などの動物も喜んでる。
- ◆子どもがきれいな水で体を洗ってもらえるようになってよかった。
- 「いのちを守る水」すごろく 2枚の絵を比べてみよう
- ◆私たちはいつもこんなにたくさん水を使っているとは思っていなかった。今まで思っていなかったけど、水はとっても大切なものだ分かった。



募金贈呈式

7月1日(木) 佐賀市立赤松小学校にて



箱いっぱいの募金が集まりました

- ◆赤松小学校では、ボランティア委員会6年生のみなさんが中心となって6月を「ユニセフ募金月間」に決めてユニセフ募金活動に取り組みました。その結果、14,464円の募金が集まりました。「世界の子どもたちのために役立ててください。」と、箱いっぱいの重たい募金を佐賀県支部に託されました。
- ◆日頃から私たちは佐賀産の新鮮な夏野菜をふんだんに食べられることができることに触れ、一方では世界には様々な理由で新鮮な野菜を食べることができない子どもたちがたくさんいることをお話し、その改善策として『ビタミンAカプセル』が有効であることを伝えました。赤松小学校のみなさま、ありがとうございました。

【ボランティア委員のみなさんの声】

○『ビタミンA』の値段が1円だと聞いてビックリした。1円でも役に立つのが分かった。
○この募金で7,000人以上の子どもたちに1年分のビタミンAをおくることができるのでよかった。



新鮮な野菜を食べられない子どもたちにビタミンAを

募金贈呈式

6月30日(水) 佐賀市文化会館にて



- ◆コープさが第20回通常総代会にておいて「コープさがネパール指定募金」の贈呈が行われました。コープさが生協では2008年度から「ネパール指定募金」として、お年玉募金をはじめ、エリアでのユニセフバザー・支部まつりやコープフェスタなどの中でユニセフ募金活動に取り組んでおられます。2009年度の「ユニセフ・ネパール指定募金」386,618円を日本ユニセフ協会佐賀県支部太田記代子常務理事に贈呈されました。皆様からご協力いただいた浄財は、ネパールの農村女性による村の開発計画(教育・保健・衛生・保護)を資金面・技術面から支援するために使われます。ありがとうございました。

2010年ユニセフ「お年玉募金」メッセージより

- * みなさんが笑顔で暮らしていけることを願っています。
- * 本当の宝は人を大切にすることです。頑張ってください。
- * かわいい子どもたちのために、少しでもお役に立てれば嬉しいです。



ユニセフ募金 & ユニセフグッズ頒布

6月14日(月) 浄土真宗本願寺派各教化団体合同総会会場(武雄市文化会館)

- ◆ 浄土真宗本願寺派各教化団体合同総会会場においてユニセフグッズの頒布と募金活動を行いました。寺院関係の皆様ユニセフへのご理解とご協力を呼びかけました。
- ◆ 皆様からご協力いただいた募金は7,930円、グッズへのご協力は24,180円でした。ご協力いただいた皆様に心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。



募金贈呈式

6月1日(火) 佐賀県支部事務所

- ◆ 第3回「庭の駅オープンガーデン」実行委員会(馬渡康禎代表)では、4月29日から5月2日まで県内18カ所でオープンガーデンを開催されました。お庭を見に来られた方から入場料をいただく代わりに、青い募金箱を設置してユニセフ募金にご協力いただきました。
- ◆ 本日は代表の馬渡様が27,271円の募金を事務所までお届けくださいました。ご協力くださった皆さま、大変ありがとうございました。

